

急接近、合流憶測も

県議会与党会派「おきなわ新風」と中立会派「無所属の会」は1日、連名で知事への予算要請を実施した。異例の急接近に、県議会内では驚きが広がった。新風との協力関係を通じて無所属の会が与党と足並みをそろえることが増えれば、県議会の構図が変化する可能性もある。

県議会連名の予算要請

おきなわ新風は、立憲民主党所属議員や「オール沖縄」系無所属議員の5人で構成され、会派長は仲宗根悟氏。与党で2番目に議席が多い。中立を掲げる無所属の会の當間盛夫氏と大田守氏の2人は、元郵政民営化担当相の地下幹郎氏に近い。8月に日本維新の会を離党したばかりだ。

単眼
複眼

立場を異にする2会派だ。立候補を予定しており、独自候補を擁立する予定がないオール沖縄勢力に近づく意図もありそうだ。

今後、無所属の会が与党

連携拡大なら構図に変化

と足並みをそろえることが増えるとみられる。直近でも与党4会派と無所属の会、ガソリン暫定税率の廃止に伴う沖縄での軽減措置について要請行動を実施した。県の決算認定でも与党と無所属の会が賛成した。県議会は少数与党だが、与党に無所属の会を足せば議長を除いて自民会派単独を上回る。採決で自民が公明を取り込めば多数となるが、公明が退席なら与党と無所属の会が多数となる。異例の連名要請に、他の会派から「合流か」と勘ぐる声も上がる。新風の仲宗根県議は「そういう話をしたことはない」と否定。「政策面で共通点を見いだして連名要請しようとなった」と強調した。引き続き政策や課題ごとに連携していく考えを示した。

無所属の会の當間会派長は取材に「なんでも一緒にやるといふ訳でもないが、できることは連携していく」と語った。(明真南斗)